

沼津市

# 明治史料館通信

2001. 1. 25 (季刊 年4回発行) Vol. 16 No. 4 通巻第64号



幕府派遣のオランダ留学生たち  
(沼津市明治史料館所蔵)

- ①西周、②赤松則良、③肥田浜五郎、④沢太郎左衛門、⑤津田真道、  
⑥布施鉦吉郎、⑦榎本武揚、⑧林紀、⑨伊東方成

24cm×28cm。1865年、ハーグのホーマン写真館にて撮影。肥田と布施は留学生ではなく、石川島に建設が決まった造船所の機械購入のため、元治元年(1864)オランダへ派遣された。後からオランダに来た肥田らを歓迎した際の記念写真か。士官格の留学生のうち、内田正雄・田口俊平の2名は写っていない。なお、この年、西と津田は帰国する。本写真は、林紀(帰国後静岡病院頭、沼津病院重立取扱林洞海の子)が所蔵していたもの。

シリーズ

沼津兵学校とその人材

59

## 徳川家沼津学校追加掟書

兵学校の総合大学化構想

西周は、沼津兵学校頭取に就任する数年前（文久二、三慶応元年）には、オランダに留学していた。

同地では、津田真道とともに、ライデン大学教授の経済学者シモン・フィッセルングの個人指導を受け、今日言うところの社会科学を主に学んだ。

西や津田が在職していた幕府の洋学研究機関開成所では、語学の習得や数学・物理学・化学等々の理工系の軍事関連の学問を洋書を通じて個別に学び取るだけで、政治・法律・経済といった国家にとって直接的に必要な学問はほとんど研究されていなかった。西らは、その重要性を意識し、オランダ留学の機会に未知の学問を系統的に学ぼうとしたのである。

フィッセルングは、その希望に応え、性法之学（自然法）、万国公法之学（国際公法）、国法之学（国法学）、制産之学（経済学）、政表之学（統計学）という五科を選び、

短期間でその要領を二人に伝えた。こうして身に付けられた知識は、

二人が維新後文明開化期に啓蒙思想家として活躍する基礎となった。

帰国後、西は京都に赴き、万国公法の翻訳をしたり、幕府に政体改革の建議を行ったりした。將軍徳川慶喜にフランス語の手ほどきもしている。大政奉還直前には慶喜に召され、三権分立やイギリスの議事院について質問に答えた。

また、大政奉還後の慶応三年十一月には幕府に代わる新政治体制の構想を示した「議題草案」を起草した。日本最初の私擬憲法案ともいべき同草案が慶喜側近の手に届いたことは確かだが、その後の慶喜の行動に影響を与えたのか否かは不明である。それ以外、京都での仕事のほとんどは瑣末な翻訳などばかりで、欲求不満が溜まるだけだった。西のオランダ仕込みの新知識は、十分に活かされな

西にとつて、その後に招聘された沼津兵学校での仕事も、折角オランダで学んだ治国の学問を活かすには、誠に狭い範囲のものでしかなかった。沼津兵学校とその附属小学校は、基礎から専門課程までを系統のかつ段階的に実施する、それまでの日本にはなかった極めて整えられた学校であり、西の考えが十分盛り込まれていた。しかし、所詮、兵学校は軍人の養成機関でしかなく、彼の本領である法学・政治学等を専門に教授する機会には恵まれなかった。

現状に満足しなかった西は、明治二年（一八六九）四月、前暮春に発布した「徳川家兵学校掟書」の追加として、「徳川家沼津学校追加掟書」を起草、沼津兵学校を単なる軍学校から、文官をも含めた藩の幹部を養成する総合大学とする方針を打ち出した。

全三十二条から成る追加掟書では、既存の兵学科に加え、文学科を新設すること、その中には政律・史道・医科・利用の四科を置くことが明記された。現代の学問分野で言えば、政律は法学・政治学、

史道は哲学・文学・歴史学、医科は医学、利用は工学・農学などにあたるであろう。

掟書には、各科で学ぶべき教科目が一覧表に示されている。中でも政律科の本業生（基礎過程たる資業生に続く専門過程）には、経済学（エコノミーポリチック）、政法通論（ドロワポリチック）、国法通論（ドロワシキル）、刑律通論（ドロワキリミナル）、商律通説（ドロワコンメルシアル）、政表（スタチスツク）が課せられている。まさに、西がフィッセルングから学んだ五科がここで活かされることになっていた。

実は、追加掟書起草よりも一か月前、明治二年（一八六九）三月十一日、陸軍総括服部雄峻から陸軍学校頭取・陸軍御用重立取扱に宛て、今後沼津の学校の文武二科を卒業した者から藩の役職者を任命する方針を取るの、陸軍学校という名称は廃し、以後単に学校と称すべしという達しが出されていた（静岡県史資料編16近現代一）。同月中には陸軍御用重立取扱は学校生育方取扱、陸軍生育方

頭取は生育方頭取と改称された。たぶん同時に、教授たちの肩書も陸軍学校頭取・同何等教授から単に沼津学校頭取・何等教授に変わったものと思われる。

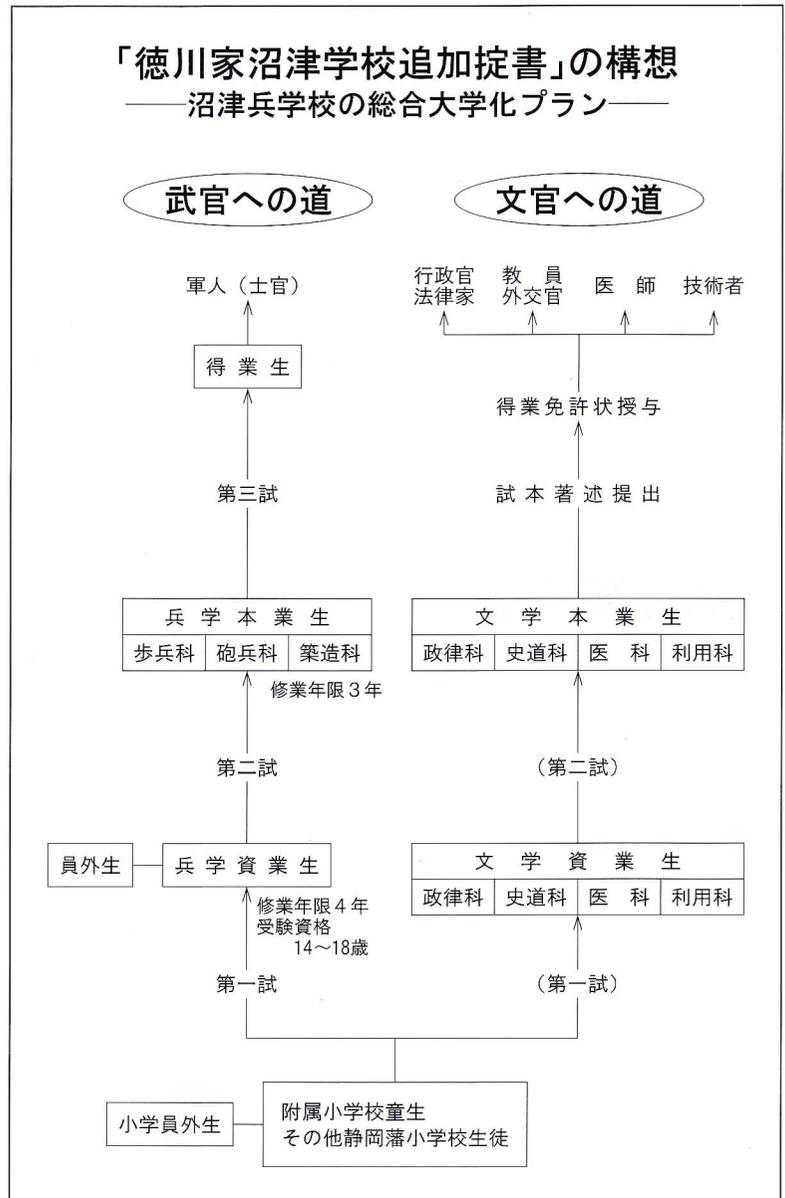
つまり、沼津兵学校に文武二科を置くという方針は、追加掟書が完成する前に藩の方針として決定されており、同時に兵学校の名称も変更されたのである。西とともにオランダで学んだ津田真道は静岡学問所の頭となっていた。沼津兵学校の文武学校化構想と静岡学問所の位置づけ、それに関する津田の関与の有無などは残念ながら全く不明である。

しかし、浄書本まで作られた追加掟書は印刷されず、三月十一日付の達しも公布されなかったようである。沼津学校の文教科新設は実現しなかった。方針変更のいきさつは謎である。

明治二年十月には、学校の名称を以前のように「兵学校」とすべしとの達しが出された。ただし、その後も「沼津学校」の名称は使用された。

なお、西は明治三年（一八七〇）

### 「徳川家沼津学校追加掟書」の構想 ——沼津兵学校の総合大学化プラン——



正月から二月にかけて、旧主である津和野藩主亀井茲監に招かれ津和野に里帰りし、その諮問に応え「文武学校基本并規則書」を呈した。同規則書は、沼津学校追加掟書と同様の内容であった。沼津では不発に終わった構想を郷里津和野でも披露したといえる。

西の夢を実現するには静岡藩は

小さすぎたのかもしれない。翌明治三年（一八七〇）九月、彼は上京した。西が仕えた明治政府の手により最高学府としての大学の制度が整えられる。その法学部出身者らが官僚として国政を牛耳ることになるのは、さらに後年のことである。

ちなみに、開成所時代、西・津

田が持ち帰ったフィッセルリングの講義ノートから政表学（統計学）を学んだ沼津兵学校員外教授杉亨二は、明治二年、静岡・江尻・清水・沼津・原の藩内五か所で開催の近代的人口統計調査を実施し、うち「沼津政表」「原政表」をまとめた。オランダ土産はこんな

形で多少役立ったのである。

# お知らせ欄

◎企画展「興農学園—みかん村とデンマーク教育—」の開催

昭和四年（一九二九）に田方郡西浦村久連（現沼津市西浦久連）に設立された、デンマーク式の農学校興農学園（久連国民高等学校）について紹介しています。

沼津兵学校・札幌農学校出身の実業家渡瀬寅次郎の遺志により、その親友内村鑑三・新渡戸稲造らの協力で設立された同校は、太平洋戦争下に廃止されるまで、生徒が全国から集まり、農業技術のみならず、理想の農村づくりや農民としての生き方を学びました。

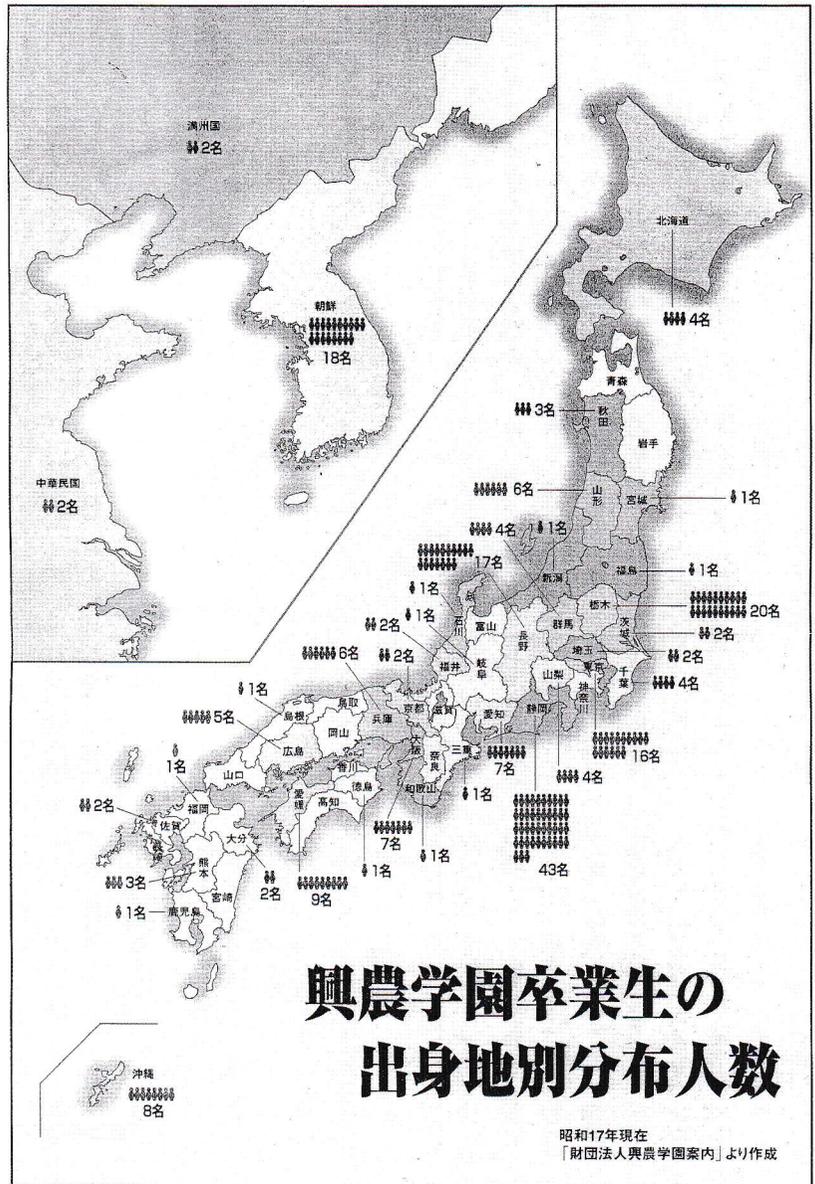
会期…平成12年12月1日(金)～13年2月27日(火)  
会場…3階北側展示室  
図録…B5版90ページ(内カラー8ページ)、頒価五〇〇円

◎歴史講演会の開催

企画展に合わせ、興農学園についての講演会を開催します。

日程 講師・演題…  
2月3日(土)

陳野守正氏（元東京都高校教員）  
「興農学園をめぐる人々」



## 興農学園卒業生の出身地別分布人数

昭和17年現在  
「財団法人興農学園案内」より作成

2月10日(土)

岩渕文人氏（元玉川学園史料室長）

「デンマーク教育と興農学園」  
時間…午後2時～4時  
会場…当館講座室  
定員…一〇〇名、参加費無料。

◎史料目録27、28の刊行

沼津市明治史料館史料目録27東

間門田中家・原庄司家文書目録

B5版、一三〇頁、頒価五〇〇円。  
標題の家以下7史料群を収録。  
沼津市明治史料館史料目録28重  
須土屋家・重寺日吉家文書目録。  
B5版、一四八頁、頒価五〇〇円。  
標題の家以下3史料群を収録。

沼津市明治史料館通信 第64号

編集 沼津市明治史料館  
発行 沼津市明治史料館  
〒410-0051 沼津市西熊堂三三二一  
電話 〇五五九-二三三三三五  
FAX 〇五五九-二五三〇一八  
http://www.city.numazu.shizuoka.jp/sisetu/meiji/index.htm